

## 日本語を学ぶことが自分のキャリアを豊かにする

ケイコとマナブムックシリーズ編集長

乾 喜一郎氏

乾 喜一郎（いぬい・きいちろう）  
ケイコとマナブムックシリーズ編集長。  
67年大阪生まれ。92年リクルート入社後と一貫してキャリアに関連する領域に携わり、06年より現職。16年よりリクルート進学総研・社会人学習領域研究員。社会人学習の専門家として、文部科学省など各種委員会での識者委員を歴任。GCDF-Japan キャリア・カウンセラー、白百合女子大学非常勤講師。



乾編集長は、今まで約20年で3000例のキャリアヒストリーを「ケイコとマナブ」等で取り上げてられました。その過程のなかで、日本語を学ぶことが、自分のキャリアを豊かにしてくれることを実感されたと言います。

私は長年、資格取得や通信講座、社会人大学院といった、何かの学習を社会人に提案することを目的とする専門誌を編集してきました。各誌とも、内容の中心は、学ぶことで満足のいく仕事や生活を手に入れた人々の事例（キャリアヒストリー）。将来が予測しにくく、また変化の激しいいま、社会人も学び続けることが必要だという声が大きくなっていますが、日々忙しく仕事をしていて余裕がない社会人に学ぼうと思ってもらうことは簡単ではありません。そのとき有効なのが、読んで「自分もこんなキャリアを送りたい」と思ってもらえるようなロールモデルなのです。私がこれまで取り上げてきたキャリアヒストリーは、これまでの約20年で3000例を越えます。

生き活きと仕事をし、心豊かな生活を送っておられるそうした人々のお話を聞いてきたなかで、しみじみと実感するのが「ことばの力」を磨くことの大切さです。

まず、仕事を仕上げていくまでの全てのプロセスで、「ことばの力」は大活躍します。

必要な情報を集める。

手に入った情報を分析し、論理的に考える。

お客さまをはじめ仕事で関わる方々のことを正しく理解する。

自分の言いたいことが相手に伝わるよう表現する……。



乾さん編集の「スタディサプリ通信大学 2019年版」より

毎日の仕事の現場は「ことばの力」が発揮できる場ばかりです。  
そして、それだけではありません。

自分のキャリアをデザインしていくうえでも、「ことばの力」は大きな威力を発揮するのです。

特に大切なのが、「振り返り」というプロセスです。満足度の高いキャリアを送っている人は、新しいことに挑戦したり、新しいことを学んだりしたとき、挑戦しっぱなし、学びっぱなしにすることなく、何らかのかたちで振り返る習慣を持っています。キャリアデザインのワークショップにおいては「キャリアの棚卸し」を行うことが多いですが、これもまさに「振り返り」です。

「ことばの力」は、この振り返りをとても意義深いものとするのです。

例えば、新しい仕事を経験してそれについて上司と面談するときや、数日間にわたる研修を受けてアンケートを記入するとき。あるいは楽しみにしていた映画を見終わったあと。「大変だった」「有意義だった」「おもしろかった」という言葉だけで終わってしまうのではなく、「何がおもしろかったのか、どんな意義があったのか」「期待を上回ったことは何か、裏切られたことは何か」「過去の経験と比べて何が同じで、何が新しかったのか」といったところまで踏み込み、適切な言葉を選んで表現する。そうすれば、経験したことや学習したことが自らの中にしっかりと位置づけられ、次なる成長の礎になってくれます。自分の血肉になるのです。

「適切な言葉を選ぶ」…言葉にしてみると簡単ですが、実際にやってみると、これはかなり難しいことです。書いてみると「少し違う感じがする」といった違和感が出てきて、何度も消しゴムを使うことになる。振り返りやアンケート記入を苦手とする方がいらっしゃるのもそのためでしょう。しかし、こうした困難は、「日本語」を学び、知っている言葉の数や使ったことのある言い回しを増やしていけば、どんどん小さくなっていきます。そしてそれにつれて、「振り返り」そのものも、より深く、有意義なものとなります。「今日の体験を適切に言葉にする」、それは、自らの行動やそこで感じた感情を、これまで学んだことや経験したものと照らし合わせ、自分のキャリアの中で無理なく位置付けられるようになった、ということだからです。

日本語を学ぶことは、キャリアデザインの観点から見ても、非常に有効なことなのです。



乾氏が編集している情報誌 詳細・ご注文はこちら

スタディサプリ社会人大学院：<https://www.fujisan.co.jp/product/1281693160/>

スタディサプリ通信制大学：<https://www.fujisan.co.jp/product/1281701759/>